

～ 給与勧告の仕組みと本年の勧告のポイント～

宮崎県人事委員会

【内容】

- 1 給与勧告の対象職員
- 2 給与勧告の仕組みと手順
- 3 公民給与の比較方法(ラスパイレス比較)
- 4 公民較差の状況
- 5 本年の給与改定について
- 6 最近の給与勧告の状況(行政職)
- 7 給与制度の総合的見直しについて

1 給与勧告の対象職員

本年の給与勧告の対象となっている職員は、下表のとおりです。

| 項目 給料表 | | 職員数(人) | | | 平均年齢(歳) | | |
|--------------------------------------|--------|--------|--------|-------|---------|-------|-------|
| | | 平成27年 | 平成26年 | 増減 | 平成27年 | 平成26年 | 増減 |
| 県 関 係 職 員 | 行政職 | 3,977 | 3,964 | 13 | 42.8 | 42.9 | △ 0.1 |
| | 公安職 | 1,979 | 1,995 | △ 16 | 38.9 | 39.0 | △ 0.1 |
| | 教育職(一) | 53 | 57 | △ 4 | 45.4 | 46.0 | △ 0.6 |
| | 教育職(二) | 2,528 | 2,528 | 0 | 43.8 | 43.8 | 0.0 |
| | 研究職 | 211 | 208 | 3 | 42.3 | 42.1 | 0.2 |
| | 医療職(一) | 35 | 34 | 1 | 37.5 | 37.5 | 0.0 |
| | 医療職(二) | 223 | 216 | 7 | 41.7 | 41.8 | △ 0.1 |
| | 医療職(三) | 125 | 122 | 3 | 40.3 | 41.9 | △ 1.6 |
| 市 町 村 立 学 校 職 員 | 教育職 | 5,683 | 5,788 | △ 105 | 46.4 | 46.0 | 0.4 |
| | 学校栄養職 | 12 | 23 | △ 11 | 32.3 | 31.8 | 0.5 |
| | 事務職 | 287 | 289 | △ 2 | 44.1 | 44.7 | △ 0.6 |
| 計 | | 15,113 | 15,224 | △ 111 | 43.8 | 43.7 | 0.1 |

※ 平成27年4月1日現在の状況である。この表には再任用職員は含まない。

2 給与勧告の仕組みと手順

宮崎県人事委員会では、地方公務員法の規定(均衡の原則)に基づき、民間事業所の従業員の給与を実地に調査し県職員の給与と精密に比較するとともに、国や他の地方公共団体の職員の給与等を総合的に勘案した上で、給与勧告を行っています。

職種別民間給与実態調査

- 人事院と全国の人事委員会が共同で実施
- 対象:企業規模50人以上かつ事業所規模50人以上の事業所
- 期間:5月1日～6月18日

県職員給与等実態調査

- 単純労務職員、企業職員等を除く全職員の本年4月分の給与等について調査

【平成27年職種別民間給与実態調査について】

- 本県では、母集団371事業所から無作為に抽出された126事業所において実地調査を実施
- 本年4月分の給与及び賞与(前年8月～本年7月)の支給状況等を調査

公民較差の算出

- ラスパイレス方式(役職段階、学歴、年齢を同じくする者同士の給与を比較)により、民間企業従業員と県職員(行政職)の4月分給与を精密に比較
- 民間企業従業員と県職員の特別給の年間支給月数を比較

民間給与、人事院の勧告や他都道府県等の状況を総合的に勘案し、給料表・手当の改定等の内容検討・決定

人事委員会勧告

県議会

(条例改正案の審議・議決)

条例改正案提出

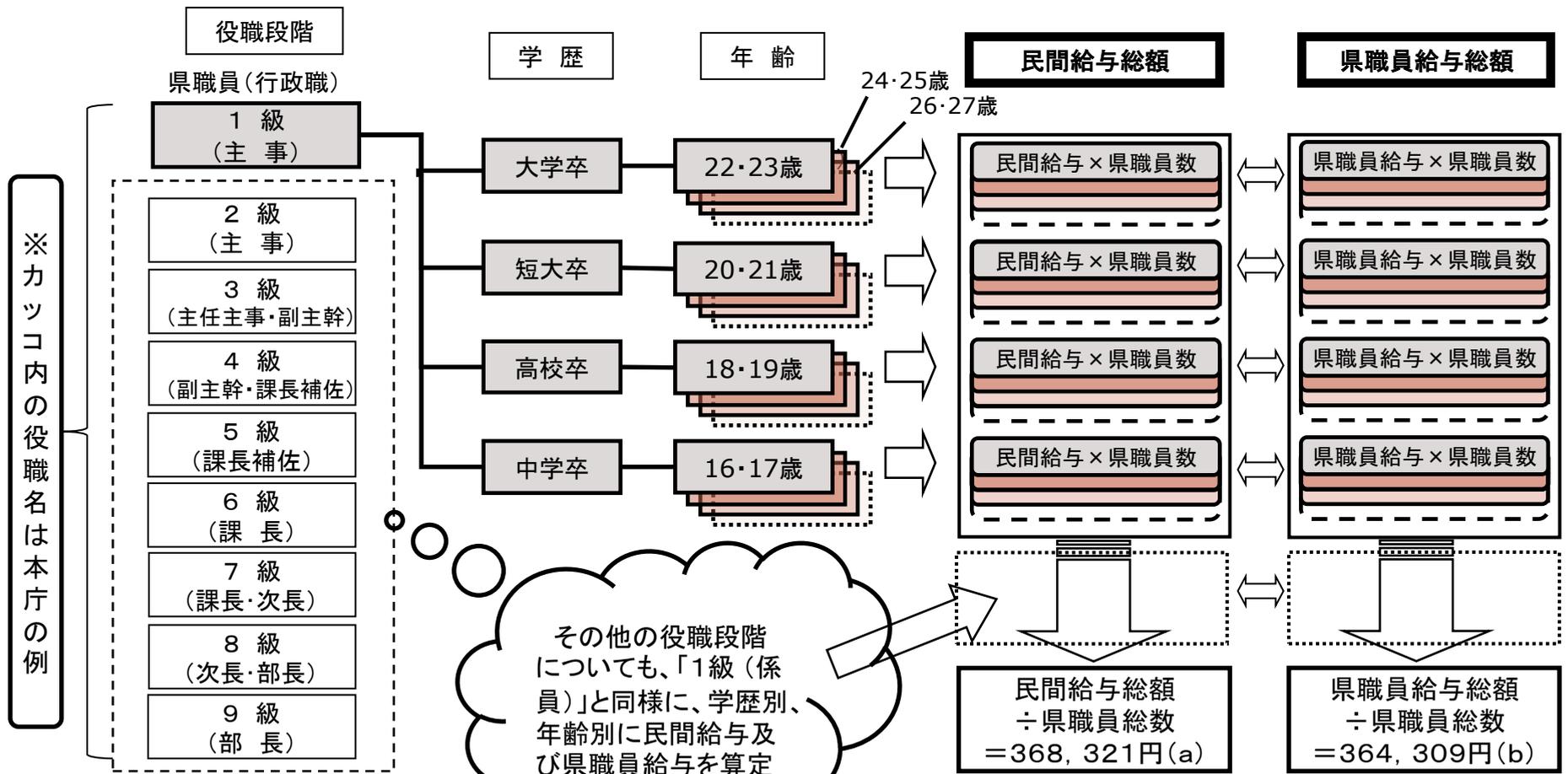
知事

(勧告の取扱い決定)

3 公民給与の比較方法(ラスパイレス比較)

県と民間企業では、組織の規模や構成、従業員の年齢構成等が異なることから、県職員と民間企業従業員の給与を精確に比較するため、役職段階、学歴及び年齢の条件を等しくする者同士で比較(ラスパイレス比較)を行っています。

この方法により、公務員に民間の給与額を支給したとすれば、その給与は現在と比べてどの程度差があるかを算出することができます。



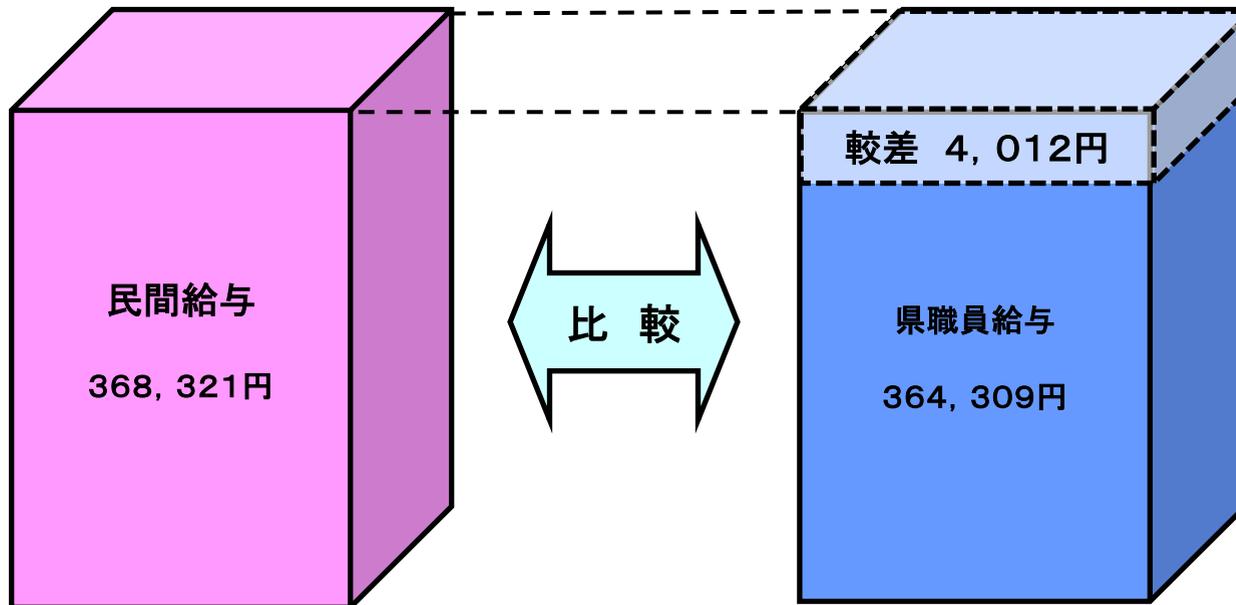
※ 民間、県職員ともに、本年の新規学卒の採用者は含まれていません。

本年の較差(a-b) 4,012円(1.10%)

4 公民較差の状況

月例給

本年の公民較差の状況について、ラスパイレス比較に基づき比較したところ、4,012円の較差(民>県)がありました。



特別給(ボーナス)

民間の支給月数(4.21月)は県職員の支給月数(4.10月)を上回っていました。

5 本年の給与改定について

給料表

- 人事院勧告に準じ、平均0.43%引上げ
※1級の初任給を2,500円引上げ。若年層についても同程度の改定。その他は1,100円の引上げを基本に改定

諸手当

- 初任給調整手当 … 医師及び歯科医師の初任給調整手当について、人事院勧告に準じて引上げ
- 地域手当 … 人事院勧告に準じて、平成27年4月に遡及して支給割合を引上げ

所要の措置

- 給与制度の総合的見直しに伴う経過措置の取扱いの見直し(国及び多くの地方公共団体と均衡する水準となるよう所要の改定)
- 高齢層職員(行政職6級相当以上で55歳を超える職員)に対する給料等の1%減額措置の廃止

特別給(ボーナス)

- 支給月数を0.10月分引上げ(現行4.10月→4.20月)
- 勤務実績に応じた給与の推進のため、勤勉手当に配分

※実施時期は、平成27年4月1日。ただし、平成27年12月期の特別給の支給月数の改定は平成27年12月1日から、平成28年度以降の特別給の支給月数の改定は平成28年4月1日から実施。

6 最近の給与勧告の状況(行政職)

本県の平成13年から本年までの給与勧告の状況は下表のとおりです。

| | 月例給 | | 特別給(ボーナス) | | 平均年間給与(行政職) |
|-------|---------|--------|------------|--------|-------------|
| | 改定額 | 改定率 | 年間支給 月数 | 対前年月数 | 増減額 |
| 平成13年 | 283円 | 0.07% | 4.70月 | △0.05月 | △1.7万円 |
| 平成14年 | △8,250円 | △2.05% | 4.65月 | △0.05月 | △15.7万円 |
| 平成15年 | △4,641円 | △1.17% | 4.40月 | △0.25月 | △17.4万円 |
| 平成16年 | — | — | 4.40月 | — | — |
| 平成17年 | △1,411円 | △0.36% | 4.45月 | 0.05月 | △0.3万円 |
| 平成18年 | — | — | 4.425月 | 0.025月 | △1.0万円 |
| 平成19年 | 777円 | 0.20% | 4.45月 | — | 1.2万円 |
| 平成20年 | — | — | 4.45月 | — | — |
| 平成21年 | △954円 | △0.25% | 4.15月 | △0.30月 | △13.0万円 |
| 平成22年 | △652円 | △0.17% | 3.95月 | △0.20月 | △8.5万円 |
| 平成23年 | △1,071円 | △0.29% | 3.95月 | — | △1.7万円 |
| 平成24年 | — | — | 3.95月 | — | — |
| 平成25年 | — | — | 3.95月 | — | — |
| 平成26年 | 876円 | 0.24% | 4.10月 | 0.15月 | 6.7万円 |
| 平成27年 | 3,695円 | 1.02% | 4.20月 | 0.10月 | 9.5万円 |

7 給与制度の総合的見直しについて

給与制度の総合的見直しの概要

昨年の勧告時において、人事院勧告に準じて、給料表や諸手当の在り方を含めた給与制度の総合的見直しを実施することとし、本年4月から本格的に実施。

平成28年度において実施する事項

○地域手当の支給割合の改定

平成28年4月1日から支給割合を引上げ

○単身赴任手当の支給額の改定

基礎額を平成28年4月1日から4,000円引き上げ、30,000円に改定

加算額の限度について、基礎額の引上げを考慮して、平成28年4月1日から12,000円引き上げ、70,000円に改定